

日本語サロンの概要（南アルプス市国際交流協会¹）

日本語サロン ボランティア 名取 英雄

- (1) 私たちの日本語サロンは、南アルプス市国際交流協会の主要な活動の一つとして、平成16年4月に日本語教室として出発しました。その3年後の平成19年に日本語サロンに改編され今日に至っています。

サロンとてスタートした時点で、私たちは、在住外国籍の方々に日本語を教える意味と多文化交流との関わりを、どのように教えれば良いのか、20時間以上費やして討議を重ね、共有できる認識をコンセプトとして文章化しました。

以降の日本語サロンは、このコンセプトを指針として、必要に応じてその都度確認し合い運営されています。

南アルプス市国際交流協会 日本語サロン コンセプト

南アルプス市国際交流協会の運営する日本語サロンのコンセプトを定める。

多文化共生社会の到来により、多くの外国の人たちが地域社会に居住してきている。多様な文化を持つ人たちがお互いに知り合い、助け合い、高め合い、互いに交流することにより、日本人、外国人共に安全で安心して生活できる社会を構築していかなければならない。

その手段として、日常生活に必要となる日本語の基礎的な力を養い、互いに学び合い、ふれあいながら地域の人々と外国人の交流の場として、協会はボランティアを中心として日本語サロンを運営していく。

- (2) 学習者は、市内外の在住外国籍の方々です。

甲西農村改善センターを会場に年3回（春・秋・冬）に分けて、それぞれ10回ずつ開催しています。

日本語サロン 外国人受講者の参加人数（実人数の合計）

	平成27年	平成28年	平成29年
大人	40	38	38
子供	38	34	27
合計	78	72	65

日本語サロン ボランティアの参加人数（実人数の合計）

	平成27年	平成28年	平成29年
ボランティア	61	55	49

- (3) 指導者は、ボランティアとして自発的に活動に参加してくださっている市民のみなさんです。誰ひとり専門家ではありませんが、外国籍の方々と触れ合い、日本語を教えたり多文化の交流を深めたりすることが大好きな市民の皆さんです。

従って、今のところ日本語教員養成講座等は殆ど受けていませんが、協会の予算で購入した参考書や各自買い求めたテキスト等を研究し、創意工夫を凝らしてみんなで話し合いながら授業を創り上げています。

¹ 南アルプス市国際交流協会ホームページ
<https://minamialpsiea.wixsite.com/official-site>

また、自分たちで研修計画を立てて、夏休みに研修を実施しています。これまで山梨県立大学の安藤先生や萩原先生、山梨日本語ボランティアの会の会長稲谷先生において頂き、日本語指導の内容や方法について、日本語能力試験の学習についてご指導を頂きました。また、仲間が学習したことをほかの仲間に伝える学習会も開きました。そこでは、「日本語の動詞について」「日本語能力試験一文法・読解」について学び合いました。

- (4) 日本語サロンでは、日本語を学び合うということと同時に、多文化交流をも大切にしています。それは、言葉を教えるということがその言葉を成立させる独特の文化を教えるということに繋がるという認識を共有しているからです。

これまでの指導の中で、私たちは言葉と文化について体験的に学んできました。また、日常生活の何気ない小さな事柄でも、その捉え方や考え方の違いを出し合い話し合うことは、授業を明るく楽しいものに変えてくれています。

- (5) 日本語サロンは、会話・文字・子供の3つのクラスでスタートしましたが、今は初心者と中級以上に大別し、それに子供クラスを加え3つのクラスで進めています。

私たちは先人の方々が苦勞して作り上げた日本語指導のテキストを活用していますが、それに依拠しながら、学習者の内発的な考えや感じ方を引き出し、たどたどしくても自分の言葉で自分の思いを語ることを大切にしたいと思っています。

一定の文型を学ぶ中で、学習者の想像力が刺激された場合は、単語や文が描き出している事柄だけでなく、一歩進んだ各自の思いや感想を表現することを大切にしています。

<日本語サロンの授業>

学習時間(90分)の前半を全体学習として、一人の担当ボランティアが指導する。ほかのボランティアは学習者に付き添い、全体学習の中で、理解が十分ではない学習者には、付き添っているボランティアが個別に対応し説明する方法をとっています。

後半は、全体学習で学んだことをもとに問題練習を行い、最後に学習の要点をおさえて終わります。この指導では、授業の途中でも、担当ボランティア以外のボランティアも適宜助言をしても良いことになっています。

学習者は基本的な理解の上に立って異なる視点から考えることも学んでいきます。

<ある日の授業から～KTさんの指導～>

- テキスト「大地²⁾」19課を用いて
- 学ぶこと「～と思います」の文型を学ぼう
- 学び方

練習問題の中に描かれているイラスト(イラスト1参照)を見て、「～と思います」の文章を作りました。

その時、学習者はイラストに描かれている事柄だけでなくその絵から触発された自己の感情を働かせ一歩突き進んだ様々な思いを文章に表しました。

その時、私たちは学習者の揺れ動く感情の動きを大切にしながら、それらの文章を取り上げ板書していきました。学習者は自分の内部から発した自分の思いが確認され、学習が主体的なものに深められていきました。

²⁾日本語初級(1) 大地(スリーエーネットワーク 山崎佳子他著)

<例>

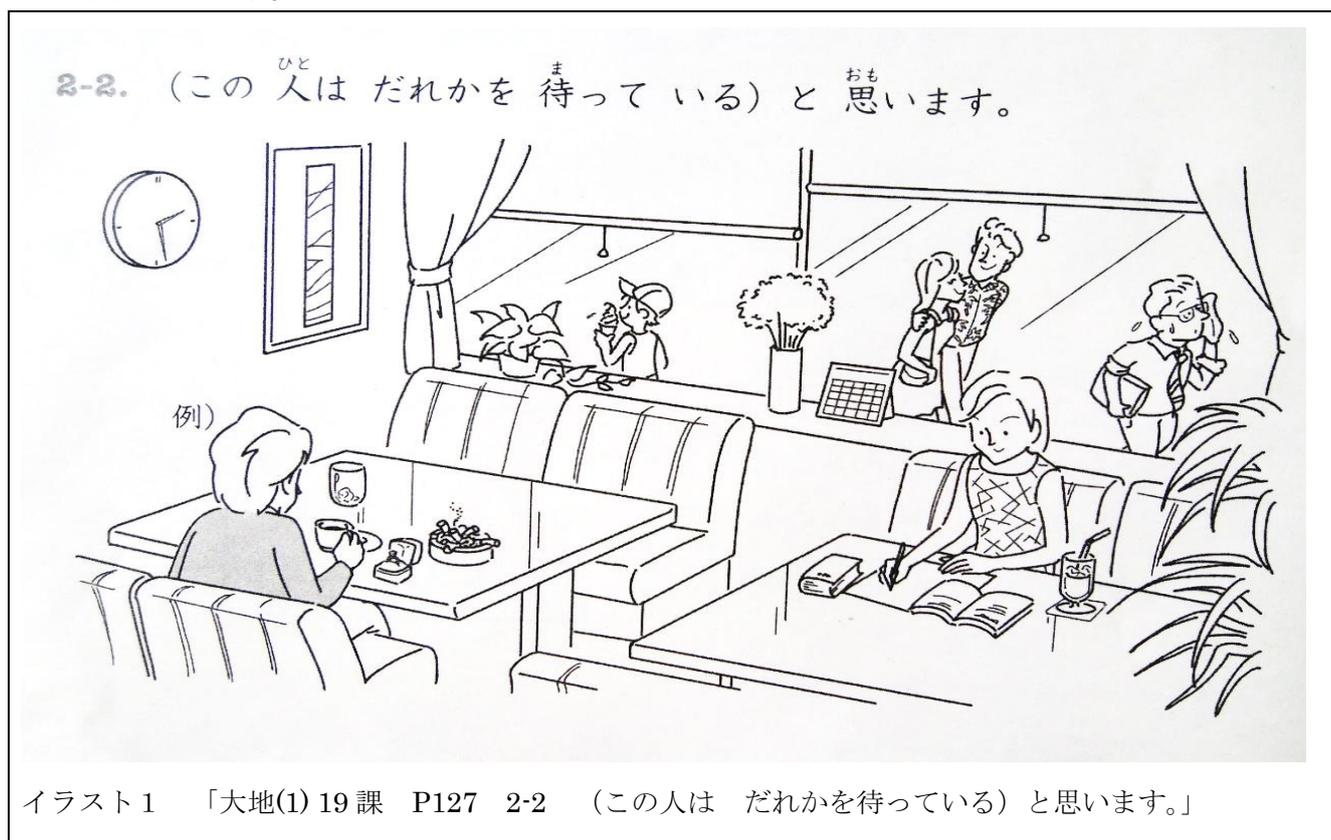
喫茶店で、一人でコーヒーを飲んでいる若い男性の絵から、文を考える。

「指輪を置いて恋人を待っていると思います。」「タバコの吸殻がいっぱい溜まっています。恋人に振られたと思います。」等

喫茶店で何か書いている女性の絵から文を考える。

「女性が翻訳していると思います。」「何か日本語に訳していると思います。」等

こんなことは単元のねらいから外れていると一笑されるかもしれませんが、学習者にとってはとても興味のある事柄なのです。学習を効果あらしめるためには、学習者の心の動きをみていくことが大切だと思っています。



この日の授業の後半では、「言葉遊び」を楽しみました。

ボランティアの H さんは、サイコロを活用して言葉遊びを演出してくれ、学習者に自由な発言の機会をつくるだけでなく、ボランティア側にも自己表現の場を与え、遊びの中で、日本語を聴き取る力、話す力を高めています。

学習者のみならず、ボランティアにとっても日本語サロンの一つの楽しみになっています。

(6) おわりに

私たちの日本語サロンは、まだまだ出発したての初期の段階です。試行錯誤が多く、いったりきたりの繰り返しです。

県内各地の日本語に関わる皆様のご指導ご助言を頂きながら少しずつ前進していければありがたいと思っています。